



地域調査の方法

真のニーズに応えるプロジェクト実施のために

効果的な奉仕プロジェクトの第一歩は、地域調査です。

地域調査は、地域社会の実情を理解するための重要なプロセスとなります。調査を通じて、最も重要なニーズを知り、クラブと地域社会のリソースを最大限に活かせるだけでなく、地元住民との信頼関係を築き、その積極的参加を引き出すことができます。地域の人びとに「自分たちが主体となって活動している」という意識が生まれれば、プロジェクト終了後も恩恵が末永く続いていくでしょう。

本手引きでは、地域調査の方法とヒントを紹介しています。充実したクラブの奉仕プロジェクトを実現するために、本手引きをご活用ください。

何から始めればよいのか分からない場合は、ロータリー地域社会共同隊（RCC）を結成することを検討しましょう。RCCは、ロータリークラブ会員ではない地元住民から成るグループで、地域社会の発展のためにロータリークラブと協力して奉仕活動を実施します。[詳しくはこちらから](#)

数人の地元関係者と話をするだけでは、地域社会の真のニーズを理解することはできません。活動の恩恵を受ける人やさまざまな関係者に協力してもらい、しっかりとした調査を行いましょう。

地域調査の6つの方法

本資料は以下の調査方法を紹介しています。2つ以上の方法を組み合わせたり、地域やクラブの実情に合わせて応用したりすることも可能です。



フォーラム（住民会合）



アンケート調査



インタビュー調査



フォーカスグループ（座談会）



地域リソース調査



マッピング調査

地域調査の基本

偏見は禁物：偏った情報や憶測は地域社会の真のニーズを理解する上での妨げとなります。

さまざまな人からの協力：地元地域の人口の構成を分析し、多様なグループから協力者を募りましょう（性別、年齢、収入、職業など）。

過小評価されているグループへの配慮：女性、若者、高齢者などは、しばしば過小評価される傾向があります。これらのグループが安心して意見を述べることのできる機会を設けましょう。

自分が外部者であることを自覚：自分の住む地域以外または海外でプロジェクトを実施する場合、小さな町や村であっても、その地域に詳しい人や団体とつながりを築いてから地元関係者と連絡を取るべきです。

決定前の約束はしない：クラブでの決定後に正式な連絡が行われることを関係者に伝えた上で、事前に協力をお願いしましょう。

プロジェクトに含めるべき関係者（重点分野別）

平和と紛争予防／紛争解決

- 暴力の被害者、難民、避難民
- 暴力の加害者
- 対立グループ
- 市民団体
- 学校、教育機関
- 役所、警察

水と衛生

- PTA
- 学校運営者
- 教師
- 生徒
- 地方自治体
- 教育／保健関連の政府機関
- 水道会社
- 農家
- 水関連の政府機関
- 施工業者

基本的教育と識字率向上

- 教師
- 保護者
- 生徒
- 未就学児童
- 学校運営者
- 教育委員会
- 教育関連の政府機関
- 成人学習機関
- 職業訓練施設
- 大学／専門学校
- 図書館／司書／学芸員
- 協同組合（農業、融資）
- 小口融資機関
- 職業訓練施設
- 大学／専門学校
- 高等学校
- 成人学習機関

疾病予防と治療／母子の健康

医療利用者

- ▶ 妊婦
- ▶ 健康リスクのある子ども
- ▶ 疾病リスクの高い成人
- ▶ 高齢者
- 医療センター、病院
- 可動式クリニック
- 社会福祉員
- 助産師
- 医療従事者（看護師、医師、医療紹介、その他専門家）
- 周辺サポートの提供者
 - ▶ 予防医療、プライマリーケア、医師照会
 - ▶ 交通、搬送
 - ▶ 入院
 - ▶ 治療後のケア、リハビリ
 - ▶ 長期療養、末期治療、ホスピス

経済と地域社会の発展

- 地元政府機関
- 企業
- 農家
- 失業者
- 雇用主
- 銀行

フォーラム（住民会合）

フォーラムは、非公式なかたちで住民や関係者が集まり、地域社会の懸念、課題、優先事項について自由に意見を交わすことのできる方法です。

参加者は、司会者による進行のもと、地元地域の強みや改善点について意見を出し合います。地元で信望の厚いリーダーや市民団体の代表者に司会や進行をお願いするとよいでしょう。事前にフォーラムの目標を明確に決め、資料を進行役に渡します。

この調査方法のメリット

- さまざまな属性の人の意見を集められる
- 参加者同士の意見交換を通じて、新たなアイデアを発見できる
- 大人数で行うことができる
- 地元で信望の厚いリーダーをプロジェクトに含めるきっかけとなる
- さまざまな課題や問題について理解を深めることができる
- さまざまな解決案を模索できる

この調査方法のデメリット

- 参加者が互いに遠慮せずに意見を述べられるようにする工夫が必要
- 主題から話がそれないように注意が必要
- 男女の割合、参加者間の力関係、地元の慣わしや伝統などが結果を左右する可能性がある
- 一部の参加者のみが発言し、ほかの人の意見が十分に聞けない可能性がある

困ったときの対処法

- 一部の参加者のみが発言している場合は、進行役がほかの参加者からの発言を促すこともできます。話題が逸れた場合は、主題をもう一度説明します。参加者に疲れが見られたり、ある話題が長引いている場合には、5分ほどの休憩をとると効果的です。
- 抑揚のある話し方や、身振り手振りの工夫も大切です。例として、身を乗り出すようにして話を聞くことで自分の関心を相手に示し、部屋全体を見渡すようにして多くの参加者からの発言を促すことができます。発言があまり出ない場合は、少人数のグループに分かれて話し合ってもらうのも一案です。
- 参加者同士の関係に配慮し、意見から生じる感情（怒り、動揺、苦痛、自己防衛など）に注意してください。進行役は、最初に話し合いのルールを説明し、他人を責めたり当惑させたりするような発言をしないようお願いしておく必要があります。感情を害した人がいる場合は、誤解を解いたり、発言内容を言い換えたりして、その場の雰囲気が悪くならないよう気を配りましょう。

話し合いの終了後

- 話し合いで得られた重要な情報をまとめ、その後の行動計画を立てる。
- プロジェクトの案がまとまったら、主要な関係者と連絡を取り、具体的な計画を立てる。

フォーラムのヒント

明確な目的を定める：どのような情報を集めたいのか、どのような課題をより深く探りたいのかを明確にしておきます。目標を定めたら、十分な情報が得られるよう入念に質問を準備します。複雑な質問は避けましょう。

参加者に都合のよい場所と時間を選び、適切な方法で告知する：参加者が容易に集まれる場所を選び、都合のよい日時を調べましょう。フォーラム開催の告知を行う際は、地域で最も頻繁に利用されている情報源（ちらし、ラジオ、学校や公共施設など）を選び、分かりやすい言葉で情報を伝えましょう。

話し合いのルールを参加者に伝え、各質問の配分時間を決めておく：一部の人だけでなくできるだけ多くの人が発言し、主題から逸れないように、話し合いのルールを事前に伝えましょう。また、各質問に費やす時間を決めておき、配分時間に沿って話し合いを進めるようにします。

真摯に耳を傾け、発言内容を書きとめる：参加者の話によく耳を傾け、すべての意見が貴重であるという印象を与えることが大切です。発言内容の要点をホワイトボードに書きとめ、全員が見られるようにすると効果的です。1～2人に記録係として協力してもらうこともできるでしょう。

少人数での話し合いも盛り込む：参加者の発言機会を増すために、少人数のグループに分かれることもできます。各グループに書記を置き、話し合った内容を最後に全員に向けて発表してもらいます。この方法は、発言に消極的な人の参加を促す効果的な方法です。

困ったときの対処法

一部の参加者のみが発言している場合は、進行役がほかの参加者からの発言を促すこともできます。話題が逸れた場合は、主題をもう一度説明します。参加者に疲れが見られたり、ある話題が長引いている場合には、5分ほどの休憩をとると効果的です。

抑揚のある話し方や、身振り手振りの工夫も大切です。例として、身を乗り出すようにして話を聞くことで自分の関心を相手に示し、部屋全体を見渡すようにして多くの参加者からの発言を促すことができます。発言があまり出ない場合は、少人数のグループに分かれて話し合ってもらうのも一案です。

参加者同士の関係に配慮し、意見から生じる感情（怒り、動揺、苦痛、自己防衛など）に注意してください。進行役は、最初に話し合いのルールを説明し、他人を責めたり当惑させたりするような発言をしないようお願いしておく必要があります。感情を害した人がいる場合は、誤解を解いたり、発言内容を言い換えたりして、その場の雰囲気が悪くならないよう気を配りましょう。



アンケート調査

アンケート調査は、地域社会の強み、改善点、ニーズ、リソースに対する地元の人びとの全般的考えを把握するのに効果的で、最もよく用いられている方法です。幅広い対象者、あるいは特定グループに的を絞って、Eメール、電話、対面で実施することができます。

この調査方法のメリット

- 現地に行かなくても実施できる
- 繰り返して実施できる
- 匿名で行われるため、率直な意見を集められる
- 低コストで実施できる

この調査方法のデメリット

- 通常、回答者を特定できず、その連絡先を知ることができない
- Eメールによる調査は、当該地域でインターネットが普及している場合のみ可能
- 電話による調査では、回答者または調査員の先入観が影響する場合があります
- Eメールや電話による調査は、一般的に回答率が低い
- 記入式の調査は、識字率が低い地域では不向き
- 匿名で行われるため、フォローアップの情報収集は不可能

質問の種類

- **選択肢式の質問**: 複数の選択肢から該当する項目(1つまたは複数)を選ぶもので、選択肢項目が限定できるときに有効です。

例: 地元地域で最も改善が必要なことを2つ、以下からお選びください。

- 医療
- 教育の質
- 雇用機会
- 治安
- その他(具体的に記入のこと) _____

- **自由回答式の質問**: 自由にコメントや意見を記入する形式で、回答者の考えや感情を理解するのに適しています。ただし、数字で集計できないため、個別の分析が必要となります。

例: 地域社会で1つ改善できることがあるとすれば、それは何だと思えますか。また、その理由をご説明ください。

- **統計的情報を集める質問**: 性別、学歴、収入など、回答者の統計的情報を集めるための質問です。

例: あなたの年齢は、以下のどれに当てはまりますか。

- 18~24歳
- 25~34歳
- 35~44歳
- 45~54歳
- 55~64歳
- 65歳以上

- **考えを尋ねる質問**: 回答者は、各項目に対する自分の考えを選びます。

例: 各項目について、あなたの考えに最も当てはまるものをお選びください。

	1 そう思う	2 どちらかといえば そう思う	3 どちらとも 言えない	4 どちらかといえば そう思わない	5 そう 思わない
教師の数は十分である					
教師は十分な資質を備えている					
学校は子どもの安全に配慮している					
学校の設備は十分に整っている					
私は子どもの学習カリキュラムをよく知っている					
私は通常、子どもの宿題を手伝っている					
学校給食の献立は適切である					

アンケート調査のヒント

調査の重要性を説明する：回答者は、地域社会を改善するという調査の重要性を理解すれば、積極的に調査に協力してくれるでしょう。

アンケート調査は短く、シンプルに：調査が長すぎると記入が面倒になり、回答内容が単純になり、途中でやめてしまったりする場合もあるでしょう。

誘導的な質問はしない：例えば、「空き地を遊び場しておくよりも、図書館を建てたほうが有効だと思いませんか?」と尋ねると、相手に先入観を与え、同意を促すことになりかねません。代わりに、「空き地をどのように利用したいと思いますか。(A) 図書館 (B) 遊び場 (C) その他_____」のように、中立的な観点から尋ねるべきです。

本番前に模擬調査を行う：用意した質問で必要とする情報が得られるかどうかを確認するために、本番前に模擬調査を行い、必要に応じて修正を加えるようにします。



インタビュー調査

インタビュー調査は、質問者と地域関係者による1対1の話し合い形式で行います。回答者の考えや意見を深く知ることができ、話の流れに合わせて質問を変えたり、詳細を尋ねたりできます。また、第三者に意見を聞かれることがないため、回答者は遠慮せずに意見を述べることができます。

この調査方法のメリット

- 話の流れによって、柔軟に質問を変えられる
- 他人への気兼ねなく自由に意見を述べられる
- 質的データ（数値ではなく、意見や感情）を得るのに効果的
- 文字が読めない人でも回答できる

この調査方法のデメリット

- 回答者に一人ずつ対応する必要があるため、時間がかかる
- 効果的な質問者となるには、十分な練習とスキルを要する
- 回答者と事前にアポを取る必要がある

インタビュー調査のヒント

集めるべき情報を決め、回答者を選ぶ：地域社会の特定の問題に焦点を絞り、集めるべき情報を事前に決めておけば、その目的に合った質問を用意し、適格な回答者を探すことができます。目的によっては、回答者を無作為に選ぶ必要もあります。

入念に質問を準備し、練習する：質問はできるだけシンプルにし、難しい言葉は避けます。回答が容易なものから順に尋ねるようにします。注意を要する質問やデリケートな質問を含む場合は、必ず個室で行ってください。また、本番の前に、同僚や友人を相手に模擬インタビューを行い、感想を尋ねてみるとよいでしょう。

親近感を与え、くだけた会話のような雰囲気をつくる：回答者が安心して話せるような雰囲気を作ることが大切です。用意した質問を読み上げるだけでは、相手が話づらくなる場合があります。できるだけ質問内容を記憶しておき、話の流れに応じて柔軟に質問しましょう。

回答を記録する：インタビュー中にメモを取ることもできますが、回答者の同意が得られれば、インタビューを録音するとよいでしょう。

関心をもって真剣に話を聞く：関心がないような態度や素振りを見せると、相手も答える意欲を失ってしまいます。時間を割いてもらっていることを念頭に置き、積極的に相手の話に耳を傾けましょう。インタビューで好印象をもってもらえれば、その後も協力が得やすくなります。

具体的な回答を求める：はい／いいえで答えられる質問だけでは十分な情報は得られません。具体的な意見を聞きだすことを心がけ、回答が曖昧また不明瞭である場合のために、より具体的な答えを得るための質問を用意しておきましょう。

例：あなたの地域社会で、医療を受けるのは簡単ですか。

– フォローアップの質問（最初の質問で具体的な答えが得られなかった場合）

– 病院には簡単に行けますか。

– 医療費は高いと思いますか。保険がないと医療を受けることは難しいですか。

その後の参加・協力について確認する：地域調査後のプロセス（プロジェクトの計画や実施）で、再び協力してもらえるかどうか、回答者に尋ねることができます。ただし、この時点では実際に協力が必要となるかどうかは分からないため、約束はしないようにします。



フォーカスグループ (座談会)

フォーカスグループは、選ばれた少人数の人から意見を聞くための方法で、フォーラムよりも的を絞った話し合いが行われます。地域社会のニーズについて、異なるグループごとの見解を知るのに役立ちます。

実施前の入念な準備、参加者の慎重な人選、経験豊かな進行役が求められるこの方法では、通常6~12人のグループが特定の質問について自由に話し合います。進行役は、参加者同士の活発な意見交換や掘り下げた議論が行われるように促すことが大切です。このため、周囲を気にせず落ち着いた話し合える環境が必要となります。また、進行役のほかに記録係を決めておきましょう。

多様なメンバーで話し合うのが理想的ですが、参加者同士の関係や文化的違いへの配慮も大切です。男女が率直に発言しあうことが難しい場合や、年齢による上下関係が発言に影響を及ぼす場合もあります。また、専門家を前に意見を控える人もいるでしょう。このような理由から、職業、年齢、性別などを考慮し、必要であれば複数のフォーカスグループを開くのが効果的です。

この調査方法のメリット

- 比較的簡単に行うことができる
- 参加者同士の意見交換により、より掘り下げた意見を得ることができる
- 具体的な考えや感情といった、数では把握できないデータを収集できる
- 文字が読めない人も積極的に参加できる

この調査方法のデメリット

- 進行役の考えや先入観に影響される場合がある
- 一部の参加者ばかりが発言したり、話し合いの内容が本題から逸れたりしないよう注意が必要
- 質的データの分析には時間がかかる
- 一人の意見だけではデータとして有効とまらない場合がある
- 少人数による話し合いだけでは地域社会全体の意見を反映できないため、異なるメンバーでのフォーカスグループを複数回実施する必要がある場合もある

質問の準備

最初に話し合う主題を決めます。主題には、クラブが考える地域社会のニーズ、プロジェクトのアイデア、地域社会で得られるリソースを含めます。次に、主題に関する話し合いを導くための質問を準備します。積極的な発言を促すため、異なる種類の質問を使い分けましょう。以下は、学校教育の改善に関する話し合いを想定した質問の例です。

- **話し合いに入る前の質問**：雰囲気に慣れてもらうための簡単な質問をします。
 - ▶ 学校には何年お勤めですか。
 - ▶ 何の教科を教えていますか／授業以外にどのようなことを担当していますか。
- **導入の質問**：主題に的を絞った話し合いを始める足がかりとなる質問をします。
 - ▶ 学校で3つのことを変えられたとしたら、何を变えたいと思いますか。理由も説明してください。
- **掘り下げた質問**：さらに掘り下げた意見を聞きだすための質問です。
 - ▶ なぜ半数の女子生徒が、2年生を終えたあとに学校に来なくなるのでしょうか。
- **鍵となる質問**：最も重要な話し合いを始めるための質問です。
 - ▶ 女子生徒が授業に復帰できるよう、学校側としてどのような支援や配慮が必要でしょうか。
 - ▶ 女子生徒が授業に復帰できるよう、どのような支援を家族に提供できるでしょうか。
- **まとめの質問**：話し合いをまとめ、最後に意見を聞きだすための質問です。
 - ▶ 女子生徒が学校に来られなくなった理由を知るために、事情を聞くことができる保護者の方をご存知でしたら教えてください。
 - ▶ 子どもを学校に通わせたくても、そうすることができない保護者の方をご存知ですか。

話し合いの終了後

調査に協力してくれたことへの感謝を伝えます。参加者との連絡を維持し、どのようにフォローアップの連絡を取るかを決めておきましょう。プロジェクトの詳細が決まったら、その内容を参加者に伝え、何らかの方法でプロジェクトでの協力をお願いすることもできます。

その他の方法

- クラブ会員と地域社会の関係者で意見や考えがどのように異なるかを知るために、それぞれのグループで同じ主題のフォーカスグループを実施してみるのも一案です。クラブでは考えてもみなかった観点が明らかになるかもしれません。
- 性別、年齢、学歴などの下位分類ごとに分けてフォーカスグループを実施する方法もあります。

フォーカスグループのヒント

参加者に都合のよい日時と場所を選び、少人数グループでの話し合いに適した個室を用意します。

地元の人に進行役をお願いする場合は、事前に進行方法を説明します。

進行役以外に話し合いの記録をとる記録係を決めます。

地域社会全体を反映するために、地元の異なるグループに属する人を集めます。ただし、メンバーは6~12人とするのが好ましく、話し合いへの参加に関心がある人を選ぶ必要があります。また、ロータリー地域社会共同隊のメンバーにも参加してもらいましょう。

話し合いの目的と集めたい情報を参加者に明確に伝えましょう。参加者が積極的に、安心して発言できるように話し合いの基本的ルールを決めておきます。

話し合いの主題を説明し、事前に準備した質問で話し合いを進めます。質問ごとに配分時間(10~15分)をあらかじめ決めておきましょう。

落ち着いて発言できる環境をつくり出しましょう。また、細部に注意して意見を聞き取り、不明瞭な点があれば補足の説明をしてもらいます。発言に反対しているような言い回しは避け、中立的な立場で尋ねるようにします。

進行役との1対1の問答ではなく、参加者同士が自由に話し合えるよう配慮します。ただし、主題から逸れないように注意する必要があります。



地域リソース調査

地域リソース調査は、奉仕プロジェクトで活用できる地域社会のリソースを把握するための調査で、店主が商品の在庫を調べるように、地域リソースのリストを作成します。

リソースには、人、施設、機関、行政サービス、行事など、さまざまな種類があります。調査では、協力が得られる人びとや利用できる場所など、奉仕プロジェクトに役立ちそうな地域社会のリソースを検討し、各リソースについて調べて最終的に利用するリソースを決めます。その後、各リソースについてよく知る関係者と連絡を取り、具体的な活用方法を検討します。

この調査方法のメリット

- 地域で得られるリソースを最大活用できる
- 調査を通じて地域リソースのネットワークをつくることができる
- 地元の人びとの関心分野を知るのに役立つ
- 包括的に地域リソースを調査すれば、将来のプロジェクトにも活用できる

この調査方法のデメリット

- 分析に時間がかかる
- リソースを管理し、各リソースの関係者を探すことは簡単ではない
- 関心やスキルといった非物質的なリソースを見落とすやすい

調査で問うこと/地域関係者に尋ねること

- 地元地域の独自性や特徴は何か
- 地元地域では何が生産されているか
- どのようなイベントや催しが行われているか
- 住民が集まる機会にはどのようなものがあるか(ボランティア、スポーツ、娯楽など)
- 誰に協力してもらえるか。それはどのようなスキル、知識、リソースをもつ人びとか
- 地元住民は、起業や文化的催しに関心をもっているか
- 住民の関心を引く話題や問題は何か
- 地元にはどのような民間団体、行政機関、企業があるか
- 地域社会のリーダー、または住民からの信望の厚い人は誰か
- 住民間の情報伝達はどのように行われているか
- どのような行政サービスやボランティア活動が実施されているか
- 天然資源や広大なスペースはあるか
- 次世代に伝えるべき知識、伝統、スキルにはどのようなものがあるか
- 地域社会の連帯はどのくらい強く、どのように形成されているか

その他の方法

- 性別、年齢、職業などの下位分類に分けて調査することで、地域リソースに対する意見の違いを把握できます。
- 地域に存在するすべてのリソースを把握することは難しいため、教育や保健といった特定の分野に絞ってリソースを調べることもできます。
- 実際に地域内を歩いたり、車で回ったりすることで、新しいリソースが発見できるかもしれません。

地域リソースの例

- 園芸や菜園づくりが得意な多くの高齢者
- コンピュータープログラミングの学習や修得に関心をもつ若者たち
- 起業精神にあふれる多くの住民
- スポーツ施設、公園、森林、自然
- PTA、宗教団体、ボランティア団体
- 介護やボランティア活動に慣れている人びと
- 地元で行われている文化的催しや活動

地域リソース調査のヒント

必要となるリソースの種類を決めてから調査メンバーを選ぶ。

地域社会の多様なメンバーに協力してもらう。

効率的に情報を集めるために、メンバーの役割分担を調整するリーダーを決める。

集まった情報を分析し、リソースを種類別に分けて資料にまとめる。

利用可能なリソースをプロジェクトに効果的に生かす方法を考える。

定期的に地域のリソースを再調査する。



マッピング調査

マッピング調査は、地域社会の重要な施設、場所やその他のリソース、また特定区域に関する情報を地図に描き出すことで、視覚的に地域社会の特徴を捉えることを目的とします。この方法は、少人数で時間をかけずに行うことができ、さまざまな年齢層や学歴の人に参加してもらうことができます。

参加者は単独またはグループで地域社会の地図を描き、重要な地点に印を付け、どのくらいの頻度でそれらの場所を訪れるかを記します。進行役は、作成された地図を基に話し合いを進め、記録係がその内容を記録します。

この調査方法のメリット

- 参加者の活発な話し合いが期待できる
- 地域社会の改善について参加者の関心を高めることができる
- 地元住民の特定グループごとに複数回実施できる

この調査方法のデメリット

- 言葉ではなく地図で情報が示されるため、分析が難しい場合がある
- この方法だけでは十分な情報を集められず、追加調査が必要となる場合がある

改善のアイデアを出す

- すべてのグループが同じ範囲の地図を利用し、地図の中心点を決めておきます。
- 全体で次のことについて話し合います:
 - ▶ グループごとの地図を比較し、どのような違いがあるか
 - ▶ なぜ違いがあるのか
 - ▶ 地図の共通点は何か
 - ▶ 共通点から分かる重要ポイントは何か
 - ▶ どのような新しい施設が地域社会に必要とされるか
 - ▶ 新しい施設は、地域社会にどのような変化をもたらすか
 - ▶ 作成された地図には、どのような地域社会の改善点や改善策が示されているか
- 作成された地図をさらに分析し、その後の実行項目を決めるタスクフォース（または委員会）を設置し、参加者からボランティアを募ります。

マッピング調査のヒント

参加者は全体で20名までとし、4～6名のグループに分けて以下を実行します。

- 自分が利用している、あるいは問題があると考えられる施設や場所を特定する
- 地域のさまざまなリソースについて、その重要度を参加者同士で話し合う
- グループの意見をまとめて地域社会の地図を作成する
- 改善のアイデアを出す

すべてのグループが同じ範囲の地図を利用し、地図の中心点を決めておきます。

全体で次のことについて話し合います。

- グループごとの地図を比較し、どのような違いがあるか
- なぜ違いがあるのか
- 地図の共通点は何か
- 共通点から分かる重要ポイントは何か
- どのような新しい施設が地域社会に必要とされるか
- 新しい施設は、地域社会にどのような変化をもたらすか
- 作成された地図には、どのような地域社会の改善点や改善策が示されているか

作成された地図をさらに分析し、その後の実行項目を決めるタスクフォース（または委員会）を設置し、参加者からボランティアを募ります。

地図に含めるもの

- 参加者の居住地
- 重要な場所（学校、公民館、公園、職場、空き地、水資源、役場、病院、警察署、娯楽施設、市場、宗教施設など）
- 多くの時間を過ごす場所（頻度によって色分け）
- 好きな場所／嫌いな場所（色分け）
- 追加したい施設や場所（付箋紙や紙片を貼り付けて表示）

その他の方法

- 性別、年齢、職業などの下位分類に分けて地図を作成することで、考えの違いを知ることができます。
- 地図作成の前に、全員で地域内を歩いて地図の構想を練ることもできます。



One Rotary Center
1560 Sherman Avenue
Evanston, IL 60201-3698 USA
www.rotary.org